

1 東電福島第一原発事故後**55か国・地域**が日本産食品等に対する輸入規制措置を導入

2 規制を維持する国・地域に対し働きかけを実施

(1) 会談や国際会議等**様々な外交機会を活用し、総理・大臣から**働きかけ

例：日EU首脳会談、日中首脳会談、日伊首脳会談、日中外相電話会談、
その他にも、

(2) 各国首都にて大使から働きかけ、

(3) 関係省庁と連携し、東京にて在京の各国大使に働きかけ等を実施。

3 日本の**食品の安全性確保の取組を説明**

➤ 国際的に比較しても**極めて厳しい基準値を設定し検査を実施**

➤ 適切な食品モニタリングを実施

➤ 出荷制限措置等で基準値を超える食品は市場に流通させない体制を確保

4 これまでに**49か国・地域が完全撤廃**が実現(その他**6か国・地域が規制を維持**)

→ あらゆる機会を捉え各国・地域への規制撤廃の働きかけと情報発信を継続

原子力災害による風評被害を含む影響に対する最近の外務省の取組

知ってもらおう

◆ 輸入規制の撤廃・緩和に向けた「草の根」からの働きかけ

政策広報動画「日本の食品
安全性確保に向けた取組」



- 被災地の食品安全性確保に向けた取組を紹介する動画(2022年3月)等を制作・配信。
- 韓国の報道機関関係者を対象に、復興の進捗状況、東電福島第一原発の現状、日本産食品の安全性等に関するオンライン説明会を開催。(東電福島第一原発について)第一の優先順位は安全確保であり、確実な情報提供をしていく、(日本産食品について)放射性物質の基準値を超えた農林水産物は市場に絶対流通させない措置をとっている、といった日本側の説明を含む記事が韓国メディア上多数掲載された(2021年3月、2022年9月)。
- 大洋州・中南米・東南アジア・欧州のメディア向けに日本産食品の安全性等に関するオンラインブリーフィングを実施し、12か国17名の記者が参加(2023年11月)。
- 韓国の報道機関関係者3名を招へいし、廃炉及びALPS処理水の海洋放出に関するブリーフィングを実施(2023年11~12月)。

食べてもらおう

◆ 被災地産品等の利用・販売促進

- 令和4年度地方創生支援対外発信事業として、外務大臣及び福島県知事共催「ふくしま復興レセプション～挑戦を続けるFukushima～」を開催。福島県知事が駐日外交団等の参加者に対し最新の復興状況等を説明した。また、参加者に日本酒、桃、米、肉、野菜等を試飲・試食形式で提供し、食品の安全性とともに魅力的な県産品を紹介した(2022年7月)
- 「ふくしま復興レセプション」の福島県産肉・野菜紹介ブース
- 福島県との共催で、駐日外交団を対象とした地方視察ツアーを実施。視察先では福島県産の桃やトマトの収穫・試食の機会を設けた他、福島県知事から食の安全性についてのPR等を通じて福島の魅力を発信した(2023年8月)。
- 上川外務大臣主催で、駐日外交団等を招待して令和5年度天皇誕生日祝賀レセプションを実施。東北などの被災地から取り寄せた食材を使用した食事を提供し、大臣挨拶の中でも同食材を紹介した(2024年2月)。
- 国際会議等の機会や海外の日本国大使館・総領事館等における日本の農林水産物・食品PR
 - G7広島サミットにおいて、国際メディアセンター内で岩手県、宮城県、福島県産の食品等をPRした(2023年5月)。
 - 在ドイツ日本国大使館において、福島県知事の訪独の機会を捉え、福島県との共催で、「『福島から感謝する』レセプション」を開催し、政府、議会関係者等の参加者に対し、福島県産の日本酒やジュース、公邸料理人の調理による福島県産米・桃等を使った料理を提供(2023年4月)。
 - 令和5年度日本ブランド発信事業として、福島県の酒造会社の代表取締役社長がブラジルを訪問。大使公邸やジャパン・ハウス等において、試飲会も交えつつ、飲食・輸入業界関係者、政府関係者等に福島復興や福島県産品の安全性等を説明(2023年9月)。

原子力災害による風評被害を含む影響に対する最近の外務省の取組

来てもらう

◆ 海外からの観光振興に向けた取組

- 福島県の観光地の魅力と安全・安心の取組を紹介する動画を制作、BBCを始めとする海外主要テレビ局を通じ全世界で放送(2021年2月、3月)。
- 在中国大使館のSNSで被災地を含む日本各地の観光・文化・食などの魅力を伝える動画を配信した(2024年1~3月)ほか、香港のブックフェアで東北復興のPRを行った(2023年7月)。

◆ 駐日外交団や外国メディア関係者による理解促進及び海外メディアを通じた情報発信

➢ 海外主要テレビ局による編成番組の制作・放送・オンライン配信

- ・BBC「Japan's Wilderness With Nick Baker」。英国の人気番組プレゼンターのニック・ベイカー氏が東北地方を訪れ、豊かな自然・観光資源や特産品、復興の歩み等を紹介する番組を全世界で放送(2021年2月、3月)。

注：取材先(2020年11月)：磐梯朝日国立公園 あだたら高原、吾妻小富士、岳温泉、アクアマリンふくしま、宮城県伊豆沼・内沼、盆栽、あんぽ柿農園、福島県の五輪聖火ランナー、鈴木酒造店長井蔵等

➢ 在京外国メディア関係者向けに福島県へのプレスツアーを実施

- ・2022年10月：韓国、中国、フランス、スペイン、ドイツ(6社5名)
- ・2023年2月：韓国、米国、英国、中国、ポルトガル(5社5名)
- ・2024年2月：米国、中国、台湾、ドイツ、スイス、トルコ(6社8名)

(取材先) 県庁、県農業総合センター、県水産海洋研究センター、福島第一原発、小名浜港、梨・いちご農家等

➢ 様々な機会を活用して駐日外交団の視察ツアーや外国メディアによる被災地の取材をアレンジ

- ・2023年8月：福島県との共催で、駐日外交団を対象とした地方視察ツアーを実施。
- ・2023年10月：スペインから招へいした記者に福島での取材機会を提供。

(取材先) 県庁、福島第一原発、伝承館、富岡町住民、水産資源研究所、魚市場、果樹園、県農業総合センター

香港ブックフェアで東北地方などをPRしている様子



BBC番組制作で、福島県内のあんぽ柿農園をリポートするベイカー氏

小名浜港(漁協)による自主検査を取材するプレスツアー参加者



富岡町住民へのインタビュー